



報道関係各位

2016年3月14日

～“教育界のノーベル賞”ノミネートで日本の教育を世界に発信～ 工学院大学附属中高の高橋一也教諭が 日本人初、「グローバル・ティーチャー賞」授賞式に登壇

工学院大学附属中学校・高等学校(校長：平方邦行、所在地：東京都八王子市)の高橋一也教諭が、教育界のノーベル賞と称される「Global Teacher Prize (グローバル・ティーチャー賞)」のトップ10にノミネートされましたが、グランプリ受賞はなりませんでした。

授賞式に先立って行われた Global Education & Skills Forum で、パネルディスカッションやレゴブロックを用いて思考力を養う模擬授業を行いました。惜しくもグランプリ受賞は逃したものの、日本人初のトップ10選出という快挙を成し遂げ、日本の教育を世界に大きくアピールしました。

【高橋一也教諭のコメント】

この度、このような栄誉ある賞の最終候補にノミネート頂き、大変光栄に感じております。今後ますます研鑽を重ね、より良い教育活動に励みたいと思います。また、21世紀型教育を実践する工学院大学附属中学校・高校が中心となり、日本の学校教育を大きく変えていく事を強く熱望します。

そして、今まで私の人生で出会ってきた皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。特に私の人生に多大な影響を与えてくれた恩師からは、“教育の素晴らしさ”を学び、私も教育者を目指すようになりました。この賞を頂いた事で、さらに彼らに一步でも近づく事が出来たらと願うところです。

■グローバル人材の育成への大きな貢献が評価される

高橋教諭は国内の大学院修了後、米国に約1年半留学し、「インストラクショナルデザイン」学んで帰国。

日々の授業では、思考力の向上を目的にレゴブロックを活用したり、タブレットを用いたICT教育の実践、また、宇宙エレベーターコンテストへの参加や時事問題(シリア難民・平和・言語など)を英語でディベートするなど常に新しい教育に取り組んでいます。さらに、生徒たちとインドネシアを訪問し、現地の社会起業家とごみ問題解決のプロジェクトに参加するなど、グローバル人材の育成に励んでいます。

■「Global Teacher Prize (グローバル・ティーチャー賞)」とは

イギリスの非営利教育団体であるバーキー財団(Varkey 基金)が設立し、世界148カ国・約8,000人の中から選出された教師に与えられる国際的な賞です。



<取材等に関するお問い合わせ>

学校法人 工学院大学 総合企画部広報課 担当：関根・山田・佐野
TEL:03-3340-1498 / e-mail:gakuen_koho@sc.kogakuin.ac.jp